

【相談内容】**事例 1：実習指導者の実習生に対するセクシャル／パワーハラスメント（学外）**

Aさんは女性の学生で、先日、長期の学外実習を終えました。Aさんの実習地の部門責任者は、Aさんの所属する学科とは違う職種の50代のB氏でした。実習が開始された週末に、Aさんと他の学校からの実習生の歓迎会が近くの居酒屋で開かれました。B氏には普段から支配的な雰囲気がありました。歓迎会の席でお酒が入ったこともあってか、しばらくして実習生3名全員を自分の近くの席に座らせ、お酒を勧めました。Aさんはお酒があまり飲めなかったため、それを理由に断りましたが、「勧められた酒に口をつけるぐらいはすべきだ」などと言われ、気まずい思いをしました。そのうちB氏が肩を組んだり胸に触れてきたりしたため、Aさんはトイレに行くふりをして席を移動しました。

その後は特に大きな問題は起こらず、Aさんも実習成績に響くのを恐れたのと大事にはしたくなかったためそのままにして実習は終わりました。しかし、大学に戻ってからも嫌な気持ちは消えず、大学の科目担当者に相談しました。

【相談先】

大学の科目担当者

→大学の科目担当者から学科に報告され、学科教員で共有し対応方針を検討後、実習先へ学生のAさんからの相談内容を報告し、今後の対応について調整した。

【相談結果】

実習先において、次年度に向けそのようなことが起きないように今後の対応について協議が開始された。

【相談内容】**事例 2：実習施設における患者によるセクシャルハラスメント（学外）**

Cさんは女性の学生で、精神科病院の学外実習に来ており、患者さんに失礼のないように緊張して過ごしていました。実習の中盤に、病棟の業務を手伝いつつ見学をしていると、担当患者の60代男性のDさんに「大事な話があるから部屋に来て」と突然呼ばれました。学生のCさんは、不思議に思いながらDさんの病室にいくと、たまたまDさんの4人部屋には、他に誰もいませんでした。Cさんが部屋に入ると、Dさんは自分のベッドの側に呼びました。Cさんがさらに不思議に思いながら近づくと、Dさんは急にズボンと下着を全て脱ぎ下ろし、下半身裸になりました。Cさんは悲鳴を上げ、病棟詰所に逃げ込みました。

【相談先】**実習指導者**

→実習指導者から病棟看護師長および病院のハラスメント対策の部署、学科へ学生からの相談内容を報告し、今後の対応について調整した。

→実習指導者と病棟看護師長が学生のCさんをケアし、Cさんの気持ちを傾聴した。

【相談結果】

1 実習施設の病院において、次年度に向けそのようなことが起きないように今後の対応について協議が開始された。

2 病棟看護師長がDさんと話し合い、学生のCさんが大変怖い思いをしたことを説明した。後日、Cさんは、実習指導者立ち合いの元、Dさんから謝罪を受けた。

【相談内容】**事例3：学生から受けた学内実習中のセクシャルハラスメント（学内）**

Eさんは、何でも真面目に取り組む女性の学生で、性格は内気でした。学内の実習科目には、グループ毎に実習課題に取り組んでいくものがありましたが、その実習課題スケジュールには、序盤に触診の単元がありました。

触診の実習課題を開始してしばらくしてから、同じグループの男性の学生のF君が、何かと言えば女性の学生に近づき、教員の目の届かないところでベタベタと触ってくるようで、Eさんは、「ずいぶんスキンシップの多い人だな」「触診の実習だからしょうがないのかな」と思いつつもモヤモヤとしていました。そんな時でも他の女性の学生は、「関係ない時に触るのやめてよ」「距離が近い近い！」と言いつつうまく交わしていましたが、Eさんは、F君が気を悪くしてしまうのではないかと、傷つくのではないかと思うと、なかなか強く言うことができませんでした。

授業後にグループで勉強することにしたある日、Eさんが軽食を買いにコンビニに行ったらたまたま1人で戻ってきた時に、大学の建物の陰からF君に呼び止められました。Eさんが近づいたところいきなり抱きすくめられてしまいました。怖さのあまりがむしゃらに両腕でF君を振り切って逃れることができました。F君は、「さっきは思わせぶりの態度をとったくせに」と捨て台詞を言って立ち去りました。

Eさんは、気を持たせたつもりは全くなかったのですが、自分の今までの態度が悪かったのではないかと落ち込んでしまい、授業でF君に会うのも気まずく、大学の授業に出席できなくなってしまいました。心配して事情を尋ねてきた、同じクラスの仲の良い友人に強く勧められて、Eさんは学科の学生相談員の教員に相談しました。

【相談先】

学科の学生相談員の教員

→学科の学生相談員の教員が学科長と学科長補佐、学年担任へ学生のEさんからの相談内容を報告し、学科内で今後の対応について調整した。必要に応じてEさんとも話し合った

【相談結果】

学年担任、学科長がF君からも事情を聞いた。また、EさんがF君の言動で怖い思いをしたことと、関連したEさんの今の状態について説明し、F君のセクシャルハラスメントとなりうる言動について指導がなされた。最初、F君は、自分は悪くないと言っていたが、説明と指導を受けるうちに、反省するような発言がみられた。

また、大学にいる間、Eさんは1人にならないように気をつけた。

【相談内容】**事例 4：学内実習中のセクシャル／パワーハラスメント（学内）**

G先生は、教育経験豊かな教員です。声が大きく、豪快な印象を受けますが、「自分は口が悪い」「気を遣った話し方はできない」などと公言していました。ある日、G先生の担当科目で視診や触診の実習があり、上半身薄着になる必要がありました。しかし、G先生は、男性の学生には「男なんだから上半身ぐらい脱げ」「脱げないなんてあり得ない」などと言いました。男性の学生のHさんは、他人に上半身の裸を見せたくなかったのですが、成績に影響するかと思い、抵抗できませんでした。それでも、今後も同じようなことがあるのは耐えられないと思い、荒川キャンパスのハラスメント相談員に相談しました。

【相談先】

ハラスメント相談員

→ハラスメント相談員が学科長と学科長補佐、学年担任へ学生のHさんからの相談内容を報告し、ハラスメント相談員を招いて学科内で今後の対応について調整した。

【相談結果】

G先生には学生の状態が説明され、学生の心理的負担に対する配慮とハラスメントとなりうる言動について指導がなされた。学科でそのようなことが起こらないような対応について協議が開始された。

【相談内容】

事例5：担当患者から実習生に対するセクシャル／モラルハラスメント（学外）

Iさんは女性の学生で、実習初日の昨日から、入院患者のJさん（男性）を担当しはじめました。昨日は、実習指導者から患者に紹介を受け、Jさんは学生のIさんが担当することをとても喜んでくれている様子で、自分を受け入れてくれたことを嬉しく思い、またほっとしていました。翌日、Jさんのバイタルサインズ測定にベッドサイドに行き、脈拍測定のために橈骨動脈に触れて測定していると「なんだか、ドキドキしちゃうよ」「ピチピチした肌がきれいだね」と腕を撫でられました。学生のIさんは、<そうですか？>と軽く受け流したつもりでしたが、違和感が残りました。午後バイタルサインズを計測し、Jさんの自宅での血圧や日々の生活の様子を聞きました。血圧計を片づけようと後ろを向いた瞬間に、スマートフォンのカメラのシャッター音が聞こえました。「あれ？」と思いましたが、その場でJさんに尋ねることができず、ベッドサイドを離れました。徐々に、どうしたらよかったのか不安になり、ベッドサイドに行くことが怖くなりました。

【相談先】

実習指導者および科目担当の教員

→学生のIさんが、実習指導者にその日の報告をする際に、「気のせいかもしれないけれど、腕を触ってきたり、写真を撮られたりされたように思います」と報告した。気持ちが動揺し、なぜか涙があふれた。実習指導者に、担当患者を交代するか、無断で写真撮影することはやめて欲しいことを納得してもらい継続するか、希望を聞かれて話し合った。

→その後、学生のIさんから科目担当の教員にも報告し、相談した。

【相談結果】

実習指導者が担当患者に「学生の担当はどうか、ご迷惑はないか」と挨拶に行き、患者の心情を聞いた。担当患者のJさんは学生を可愛いく思い「家族に紹介したいと思って」と写真をとったこと、「悪気はなかったが、確かにマナー違反だった。申し訳なく思う」と話した。

断りなく写真は撮らないこと、実習最後には一緒に写真を撮ろうと約束し、実習指導者が立ち合いのもと、他の患者が写り込まないように注意して、担当患者のJさんと一緒に写真を撮った。その写真はSNS等で用いないよう約束をお願いした。

【相談内容】**事例6：担当患者からの実習生に対するモラルハラスメント（学外）**

Kさんは女性の学生で、70代男性のLさんを担当し、退院に向けたADL拡大を目標に、ともに会話を楽しまつくりハビリテーションに取り組んでいました。退院日が具体的に検討される段階となり、Lさんから「とてもよくしてもらった。連絡先を教えて。」「（携帯電話の）ここに入力して」と言われました。2回、3回と連絡先を聞かれましたが、学生のKさんは、「そう言っていたいてうれしいです」「実習生なので」などとやんわりと返し、応じませんでした。応じようとはしない様子にLさんはムツとし、その場は険悪なムードになってしまいました。それ以来、学生のKさんはベッドサイドに行くのが苦痛に感じられるようになりました。

【相談先】

大学の科目担当の教員

→大学の科目担当の教員に、個人的な連絡先を聞かれたが、断ったら気分を害したようで、どうしたらよいかと相談した。学生のKさん同席のもと、大学の科目担当の教員がLさんの病室へ赴き、学生との連絡方法について説明することとなった。

【相談結果】

大学の科目担当の教員からLさんに、学生を受け入れて下さったお礼と学生との連絡方法について丁寧に説明し、退院まで引き続き学生を担当させてよいかの確認をした。さらに、「学生の個人情報保護の点から、また学生は患者・ご家族とのコミュニケーションも学習中であり不適切な対応でトラブルに発展することがあるため、大学として、学生には個人的な連絡先をお伝えすることを禁止しています。もしよろしければ、大学宛にお手紙をいただけましたら、責任をもって学生にお渡しします」と大学の連絡先を伝えた。そして「学生はせっかくのお申し出に応じられなくて、恐縮し、また悩んでおりましたが、今後も退院まであと数日、引き続き、誠心誠意担当させていただきたいと考えておりますので、この点をご理解いただきたくお願い申し上げます。」と説明した。Lさんからは、「とてもよくしてもらっているのでも、何かお礼をしたいと思ったが、悩ませてしまって申し訳なかった。退院後の様子を大学宛に送ります。今後ともよろしくお願ひいたします。」と応答があった。

【相談内容】

事例7：担当患者から実習生に対するセクシャルハラスメント（学外）

Mさんは女性の学生で、60代男性、個室の患者Nさんを担当しはじめました。Nさんはとても社交的で、学生の受け入れも快諾し、病歴、自宅での生活状況なども学生からの質問にオープンに応じてくれました。学生のMさんには、担当患者に好意をもって受け入れていただけたことにうれしさと安堵がありました。翌日、ベッドから車いすへの移乗を練習する際、Nさんが「肌がきれいだね」と手と腕をさすり、「Mさん、かわいいね。彼氏はいるの?」「彼氏いいなあ」など具体的に質問してきました。学生のMさんが話題を変えても、またすぐに性的な嗜好を尋ねる質問が続き、「やめてくださいよ。そういうのは苦手なので。」と依頼すると、「セクハラって怒られちゃうかな」と冗談のように返してきました。その場は悪い雰囲気ではありませんでしたが、学生のMさんが後から思い返すとさすられた感触が残っており、嫌悪感がこみあげ、戸惑いはじめました。

【相談先】

実習指導者

→学生のMさんから実習指導者に、「こんなことで相談してよいかわからないけれども、どう対応したらいいか。」と一部の様子を話してみた。実習指導者から「Nさんの学生の受け入れはよいと思っていたが、そのような様子は見抜けず、学生のMさんには申し訳なかった。個室の密室状況がそうさせているかもしれないので、1人ではいかず、私と一緒にいくようにしましょう」と、謝罪とこれからの対応が示された。

【相談結果】

実習指導者とともにNさんの個室に行くようになったが、実習指導者の前でも学生のMさんの腕や頬を触ろうとする言動が止まず、その場で実習指導者が「それはセクハラです！学生の担当はもう中止です！」とNさんを叱責した。実習指導者から管理者である技師長に報告し、技師長からも学生のMさんと大学の科目担当の教員に「先に見抜けなくて大変申し訳なかった」との謝罪と、担当患者を新しい女性患者に変更する提案がされた。学生のMさんは同意し、その日の午後より新しい女性患者を担当しはじめた。

【相談内容】

事例 8：実習指導者から実習生に対するパワーハラスメント（学外）

Oさんは、同級生のPさんと同じ実習施設で臨地実習を開始しました。Oさんは不安を持ちつつも、良い実習をしたいと意気込んでいました。その実習施設では、毎朝、実習生が実習指導者にその日の支援計画を伝えて指導を受け、実践に臨みます。実習生のOさんは、昨夜、自分なりに理解した担当の対象者の状況と必要な支援を実習記録に記載し、実習指導者に説明しました。夢中で読み上げていると、実習指導者は途中から聞いていない様子で、他の職員に話しかけたり、イライラしたりしました。そのうち、「ちょっと、途中でごめんね。なんで今日それをしようとしているのか、全然わからないんだけど、そもそもこの患者さんは何の疾患で何のために入院しているのかわかってる？」と止められ、質問攻めが始まりました。必死に回答しましたが「うーん」と納得してない様子で、「今日はそれじゃない。準備してきてないから、今日は見学ね」と実践をさせてもらえず、「優先順位と根拠を考えて」「要点をまとめて説明できるように」と課題を出されました。

翌朝以降も同様のやり取りが続き、実習指導者から「将来本当にこの職業に就きたいの？向いていないんじゃないの？」「こんなこともわからないで何しに来たの？」などOさん自身にあてた質問が次第に増えていきました。Oさんは睡眠時間が減り、食欲がなくなり、元気がなくなっていきました。同じ実習施設で実習をしているPさんは、一緒にいたたまれなくなりました。Pさんは、大学の担当教員に相談することをOさんに勧めましたが、Oさんは「うん」と言うものの、その元気が出ませんでした。

【相談先】

大学の担当教員

→同じ実習施設で実習をしているPさんから大学の担当教員に、Oさんが苦戦している様子を伝えた。大学の担当教員は、Pさんが勇気をもって知らせてくれたことに礼を言い、見ていてつらかったであろうことを労った。また、実習中はPさん自身のことを優先し、可能な範囲でOさんの話し相手になってほしいことを伝えた。

→大学の担当教員から実習生のOさんに直接状況を確認した。その後、PさんやOさんから事情を聞いたことは伏せて実習指導者に指導の様子を確認し、指導方法の検討を依頼した。しかし、状況が改善する見込みがなかったため、その実習施設の実習担当責任者に相談した。

【相談結果】

実習担当責任者も、当該実習指導者のOさんに対する指導方法に問題を感じていたため、学生の理解度と心身の状況を踏まえた実現可能な指導目標・方法と、今後の対応について話しあった。その結果、実習担当責任者の采配で実習指導者が変更となった。